平成 27 年度　秋期　情報セキュリティスペシャリスト試験　採点講評

午後 II 試験

問 1

問 1 では，近年，標的型攻撃対策としても使われているシンクライアント技術を題材に，セキュリティ対策について出題した。

設問 1 は，設計案における通信経路の特定，マルウェア感染時の動作についての問題である。設問全体の正答率は高めで，多くの受験者が条件設定を正しく理解していたと思われる。

設問 2 は，マルウェア対策として改善すべき点についての問題である。設問 2(2)は正答率が低かった。要件を満たせない理由及び技術的要因を正確に記述できていない解答が多かった。使用する構成要素の仕様を正しく理解し，趣旨を表現する能力を身に付けてほしい。

設問 3 は，業務要件の実現及びマルウェア感染の仕組みについての問題である。設問 3(1)は正答率が低かった。セキュリティ技術者も，業務要件を正確に理解する必要があることを認識してほしい。

設問 4 は，パフォーマンス検証及び DMZ におけるセキュリティ対策についての問題である。設問 4(1)は正答率が低かった。セキュリティ対策の設計においては，セキュリティ以外の非機能要件とのバランスをとることも重要であり，設計したセキュリティ対策が，非機能要件を満たすことを検証する能力を身に付けてほしい。

設問 5 は，監査の客観性についての問題である。正答率は低かった。客観性は監査における重要な要件であることを理解しておいてほしい。

問 2

問 2 では，活用が広がるクラウドベースのオンラインストレージを題材に，データの適切な管理及び保護に焦点を当てて出題した。全体として，正答率は低かった。

設問 1 は，マルウェア感染の経路とその対策についての問題である。設問 1(2)は，正答率が低かった。マルウェア対策としてどのような措置が必要か，置かれた状況を深く理解し判断する能力を身に付けてほしい。

設問 2 は，データの保護に関係する法令についての問題である。設問 2(1)の(d)，(e)及び(f)は，正答率が高かった。設問 2(2)は，正答率が低かった。技術だけでなく，法令も考慮した上で，効果的なデータ保護を実現できるようになってほしい。

設問 3 は，データの保護に利用される暗号技術についての問題である。設問 3(1)，(3)の(i)と(k)，及び(4)の正答率は高く，ほかは低めであった。暗号は，“AES だから安全”，“鍵が長いから安全”と簡単に決まるものではなく，同時に利用される様々な技術に依存して，特性に大きな違いが生まれる。セキュリティ技術者として，暗号技術を適切に利用するために，十分な知見を身に付けてほしい。

設問 6 は，委託先管理についての問題である。正答率は低かった。重要なデータを委託先に開示する場合には，守秘義務を含めた契約を委託先と締結するだけでなく，監査によって委託先のデータ管理の実態を把握し監督するなどの手法が有効である。本文中に示したガイドラインなどを参考に，様々な手法を理解し，実務に役立てられるようになってほしい。